

❀ 福岡県および福岡県障がい者 リハビリテーションセンターの取り組み

県の花「うめ」



県の鳥「うぐいす」



県の木「つつじ」



平成31年2月22日

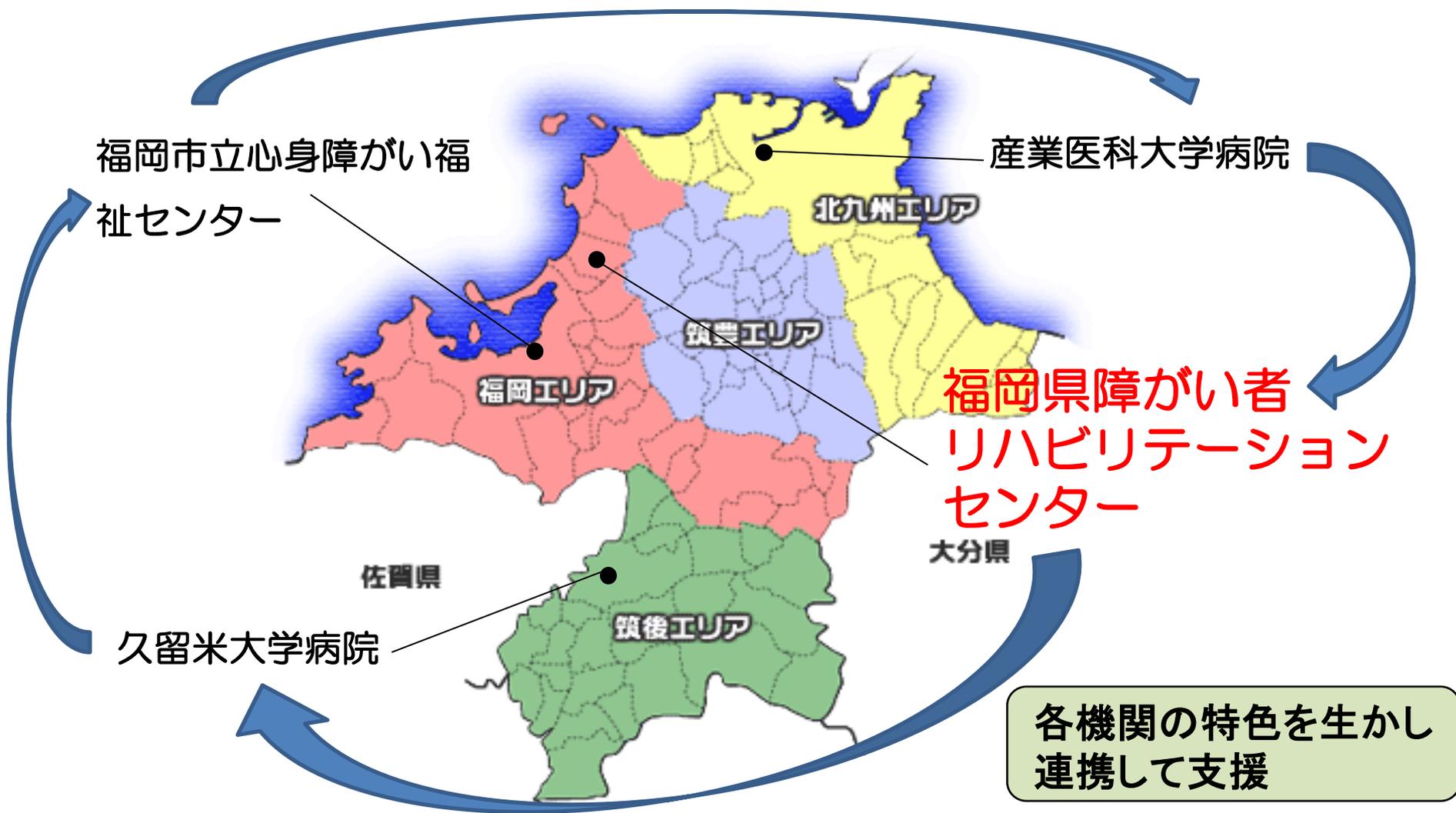
福岡県障がい者リハビリテーションセンター
高次脳機能相談支援コーディネーター
(作業療法士) 牟田 茂

はじめに

高次脳機能障がい者に対する国の支援事業が始まって約20年が経過しました。この間国内各県で様々な取り組みがなされてきました。わが県も各拠点機関にてそれぞれの特色を生かした取り組みを実施してきました。今回はこの全国会議にて発表の機会を得ましたので、福岡県の取り組みと、福岡県障がい者リハビリテーションセンターの紹介をさせていただきます。



福岡県における高次脳機能障がい 支援拠点機関



福岡県の支援体制

- (1) 県内4か所の支援拠点機関に
コーディネーターを各1～2名配置
- (2) 高次脳機能障がい家族支援相談会を開催
当センターと総合福祉センター、および
県内福祉事務所等で毎月1～2回実施
- (3) 毎年1回高次脳機能障がい相談支援体制
連携調整委員会を実施
- (4) 毎年2回支援者向けに支援セミナーを実施

支援セミナーの内容

- ・ 開催日時 : 平成30年8月24日(金)
- ・ 開催内容 : ①「高次脳機能がいこの症状と対応」(講演)
講師:小路 純央 氏
(久留米大学高次脳疾患研究所 准教授)
②「当事者の話」
和田 明美 氏
(福岡市心身障がい福祉センター
高次脳機能相談支援コーディネーター)
- ・ 開催日時 : 平成31年3月7日(木)
- ・ 開催内容 : ①「中高年の高次脳機能障害」(講演)
講師:佐伯 覚 氏
(産業医科大学リハビリテーション医学講座 教授)
②「事例検討会」(産業医科大学病院)

福岡県の支援体制

- (5) 毎年1回一般向けに講演会を実施
- (6) 「高次脳機能障がい」リーフレットと支援ガイドを作成し関係機関等に配布
- (7) 年2回実施している支援セミナーを増やすことを検討中
- (8) 福岡県安全運転医療連絡協議会の設置

講演会の内容

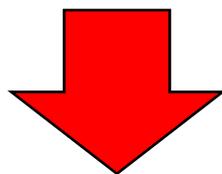
- ・ 開催日時 : 平成30年2月24日(土)
- ・ 講演内容 : ①「高次脳機能障がいをもっと知ろう～
当事者家族への心理的支援」(講演)
講師:山口 加代子 氏
(横浜市総合リハビリテーションセンター 臨床心理士)

②「質疑応答」
- ・ 開催日時 : 平成31年1月14日(月)
- ・ 講演内容 : ①「高次脳機能障がいを理解する」(講演)
講師:片桐 伯真 氏
(聖隷三方原病院 副院長)

②「質疑応答」

福岡県安全運転医療連絡協議会

自動車運転再開および停止の判断は医療機関での医学的評価、教習所での実車教習など包括的評価が必要であり、相補的連携が必要。

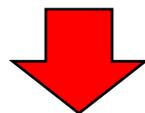


2017年4月より福岡県安全運転医療連絡協議会を設立、年2回の連絡協議会を開催。

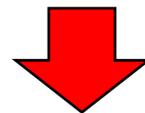
福岡県安全運転医療連絡協議会

詳しい情報は

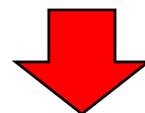
産業医科大学リハビリテーション医学講座HP



研究会



福岡県安全運転医療連絡協議会



病院からの依頼書や実車教習報告書などが
ダウンロードできます

当センターの高次脳機能障がい支援体制

- (1) 社会復帰を目標としたリハビリテーションプログラムを実施
- (2) 高次脳機能障がい者と発達障がい者を受け入れる入所訓練施設(定員24名)
- (3) 福岡県障がい者リハビリテーションセンター内に専門相談ホットラインを設置
- (4) 毎週1回高次脳機能障がい・発達障がい専門外来を実施
(各種相談や診断・診断書の作成、リハなど)

当センターの高次脳機能障がい支援体制

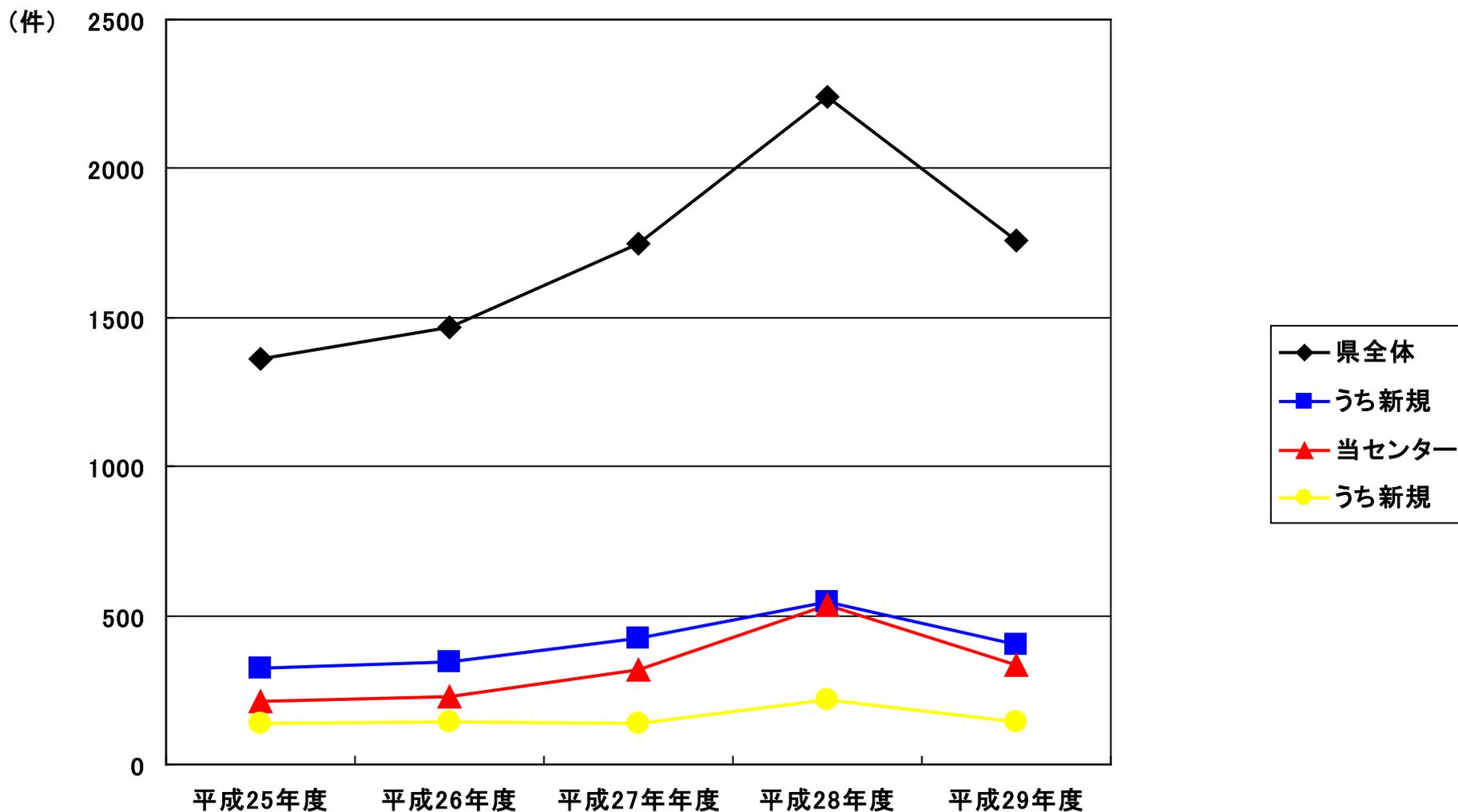
- (5) 福岡県障がい者リハビリテーションセンターのホームページ内に高次脳機能障がいに関する情報を掲載
- (6) 高次脳機能障がいに関する出前講座の実施
- (7) 昨年度より福岡県医師会の協力を得て医師向けに生涯教育講座で高次脳機能障がいに関する講習を実施(昨年度は久留米大学より本年度は産業医科大学より講師を招聘)

生涯教育講座の内容

- ・ 開催日時 : 平成30年3月16日(金)
- ・ 講演内容 : 「高次脳機能障がいとは」
高次脳機能障がいについての最新知見
- ・ 講師 : 小路 純央氏
(久留米大学高次脳疾患研究所 准教授)

- ・ 開催日時 : 平成31年1月31日(木)
- ・ 講演内容 : 「治療と職業生活の両立支援—
高次脳機能障害における留意点」
- ・ 講師 : 佐伯 覚氏
(産業医科大学リハビリテーション医学講座 教授)

福岡県内の相談件数の推移



相談内容（平成30年度）

- 訓練できる施設を探してほしい
- 診断してくれる医師又は病院を紹介してほしい
- 高次脳機能障がいに対する対応を教えてください
- 利用できる社会資源を教えてください
- 生活できる施設を紹介してほしい

など

（多い順に記載）

事例紹介（ホットラインよりの相談）

- 17歳の時のバイク事故で頭部外傷。
- 事故後2年後よりバイク盗、無銭飲食などの問題行動顕在化。
- 更に2年後よりカウンセリング受けるも問題行動に変化なし。
- 精神科病院入院、半年後退院するも再び問題行動を起こす。
- 更に3年後精神科病院入院、12年間閉鎖病棟で生活。
- 母親からの相談を受け当センター体験入所。
- 体験入所を経て正式に入所となる（36歳時）。

入所時所見および問題点

検査所見

- ・MMSE : 26/30
- ・TMT-A : 170秒
- ・TMT-B : 141秒
- ・RBMT
標準プロフィール点 : 17/24
スクリーニング点 : 7/12



職員の印象

記憶障害は自覚しており常にメモを所持。大事なことを書くと言うよりはその時の自身の気持ちを綴っている様子。指示に対し返事はよいが内容は理解していない様子。

問題点

- ・ 問題行動の再燃 ➡ 開放的な環境が引き金
- ・ 社会人として未成熟(学童期の受傷)
- ・ 仕事の経験が少ない(アルバイトのみ)
- ・ 管理面(金銭、スマホなど)
- ・ 交通機関利用に不安
- ・ 生活リズム(起床が苦手)
- ・ 親亡き後のことが心配
- ・ 他人の言動に過剰に反応する

社会との交流・就労体験



小学生との交流事業



地域住民との交流(イベント出展)



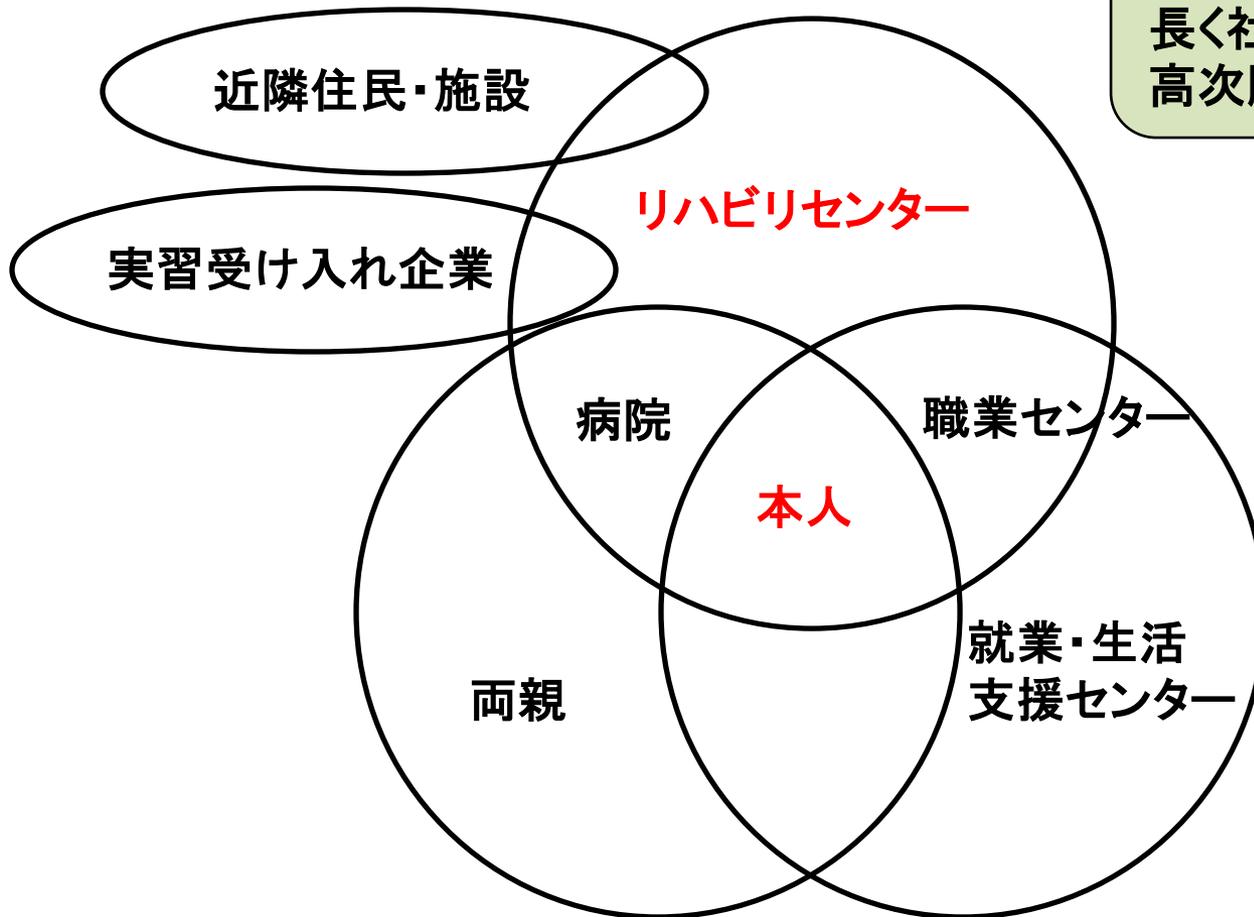
職場実習(協力企業にて)

経過のまとめ

- ・ 行動範囲は施設周辺から徐々に広げ、約半年後には遠方の自宅まで公共交通機関を利用して単独で外泊可能となる。
- ・ 金銭管理は小額から実施し、最終的には1か月分のタバコ代、外泊に掛かる交通費の管理、スマホ代まで考えるようになる。
- ・ 就労に関しては施設内作業から始まり、就職面談会への参加や、履歴書の書き方の指導、体験実習を経てHWへの登録や、職業センターでの評価、就業・生活支援センターの活用まで至った。
- ・ 生活面では入所後半で単身生活プログラムを実施することである程度の能力はあると考えられたが、起床の面は改善するに至らなかった。また、他者の言動についても過剰に反応する傾向に著変は見られなかった。
- ・ 退所間際に同じ病院に入院していた女性と無断外泊・無銭飲食。
- ・ しかし入所約3年を経過し現在は家庭復帰し、就労系サービスを利用、退所して3か月を過ぎるがトラブルはない。

支援の輪

フォーマル・インフォーマル
問わず長く根気強い支援が
長く社会から隔絶された
高次脳機能障がい者を救う



当センターの紹介

障害者総合支援法に基づくサービス事業

- ・ 自立訓練(機能訓練)定員 82名
[標準利用期間 1年6ヶ月]
- ・ 自立訓練(生活訓練)定員 24名
※行政的高次脳機能障がい者
知的障害のない発達障がい者
[標準利用期間 2年]
- ・ 施設入所支援 定員100名

当センターの紹介

利用対象者

- ・概ね、18歳から65歳くらいの障害者(主たる対象者:肢体不自由)、高次脳機能障がい者、知的低下のない発達障がい者で障害福祉サービス受給者証の交付を受けた人
- ・病院での治療を終了後、施設の利用に際し常時の介護を必要としない人
- ・集団生活ができる人

利用者状況

「機能訓練」利用者状況（平成30年7月1日現在）

利用者数 67名（男58名、女9名）

施設入所支援 55名

利用前状況：病院42名、在宅21名、その他4名

障害者手帳：1級20名、2級29名、3級9名、他9名

障害起因

脳血管障害 51名

頭部外傷 3名

脊髄性疾患 3名

その他 10名

利用者状況

平成29年度「機能訓練」退所者状況

退所者数 31名(男25名、女6名)

サービス終了後状況

復職	2名
就労系福祉サービス	6名
グループホーム	5名
家庭復帰	13名
介護保険施設	1名
入院その他	4名

利用者状況

「生活訓練」利用者状況（平成30年7月1日現在）

利用者数 27名（男 27名、女 0名）

施設入所支援 20名

利用前状況：病院23名、在宅4名、その他0名

障害者手帳：あり（精神17名、身体2名）、なし8名

障害起因

外傷性脳損傷 7名

脳血管障害 12名

その他 8名

利用者状況

平成29年度「生活訓練」退所者状況

退所者数 8名(男6名、女2名)

サービス終了後状況

復職	1名
就労系福祉サービス	1名
グループホーム	2名
家庭復帰	2名
介護保険施設	1名
その他	1名

センターの社会復帰に向けたプログラム について

1. 基本プログラム

→全利用者必須のもの。機能訓練から
ADL・IADL改善訓練等。

2. 選択プログラム

→利用者が主体的に選択し、自己決定
したもの。

3. 応用プログラム

→必要性のある利用者へ対し実施する
もの。

訓練時間割表

入所日 平成27年11月9日

開始日 平成29年7月6日

〇〇 〇〇〇 様

	月	火	水	木	金	休日訓練
1限目	掃除	リネン交換	掃除	掃除	掃除	OT
10:00 2限目 10:40	ヨガ	PT	ヨガ	PT	PT	PT
10:50 3限目 11:30	ヨガ	OT	ヨガ	就労前	就労前	OT
13:00 4限目 13:50	就労前	園芸	就労前	スポーツ	就労前	PT
14:10 5限目 15:00	就労前	旅行	就労前	リハ講座 OT	就労前	
	入浴日	移動売店	入浴日		入浴日	

* プールは非定期に実施します。実施日が決まりましたら連絡します。

* 釣りは毎月第2水曜日にミーティングを実施します。実釣に関しては第3水曜日を予定していますが、潮の干満や天候に左右されますので決定次第お知らせします。
なお、11月から3月までは天候の影響で休止します。

1. 基本プログラム

① PT・OT・ST等の訓練・心理カウンセリング、
および個別評価

② 掃除

作業による身体能力向上、作業手順を覚えること
による脳の活性化、他メンバーと協働作業を行う
ことで社会性の向上を図る。小グループを編成し
トイレ・洗面所等の清掃を行う。

③ リハビリ講座

リハビリの意欲向上を図ると共に、円滑な集団入
所生活を送るため、また社会人としての一般教養
の取得を図る。

2. 選択プログラム



① ヨガ

体力・柔軟性向上、筋力増強、筋収縮と呼吸法によるリンパや血流の改善、呼吸法・瞑想によるリラクゼーション・ストレス解消を図る。



② リズム体操

有酸素運動を通して心肺機能・全身持久力の向上、また、リズムに乗って楽しく身体を動かすことにより心身のリフレッシュを図る。

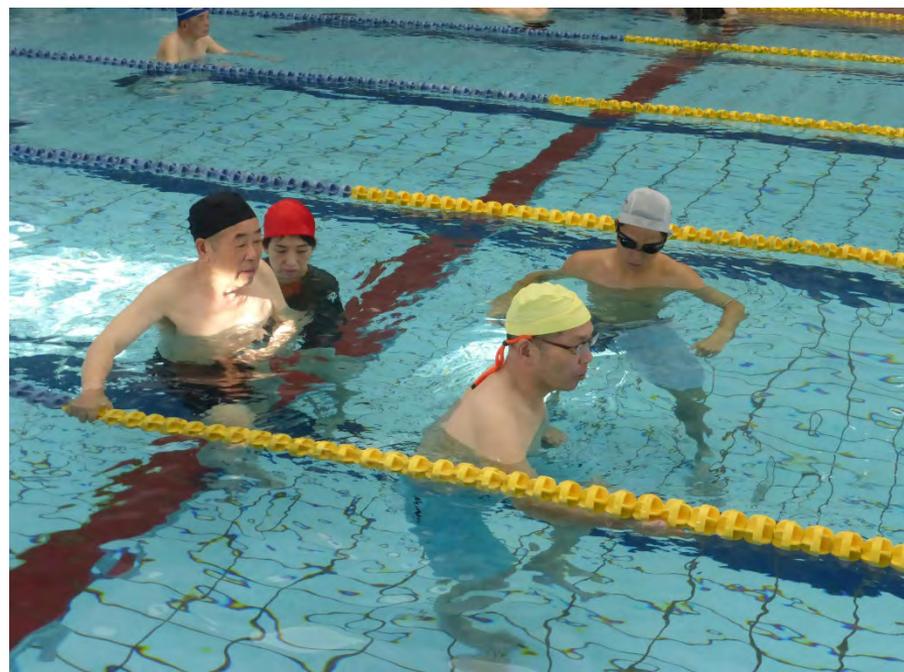
2. 選択プログラム



③スポーツ

スポーツを楽しみながら体力増進、身体機能の維持・改善、協調性の獲得を図る。

卓球、バドミントン、風船バレー、ダーツ、ボッチャ等の内容を実施。



④プール(水中歩行)

水中環境の特性を活かし運動を行うことで、リラクゼーション、体の安定性・バランスの向上、関節可動域の拡大、体力・持久力の向上を図る。

アクアエクササイズ(水中歩行、水中リズムプログラムなど)を実施。

2. 選択プログラム



⑤農園芸

農業従事者の社会復帰、植物を育てることにより生きがいや家庭での役割の開発、適度な運動を伴う作業による健康増進、他者との協働作業による社会性の維持・向上を図る。

野菜・花作り、除草・水やり作業等を行う。



⑥音楽

音楽を活用することでストレス解消、歌唱による肺活量増進、楽器演奏による記憶力向上、他メンバーとの協働作業による社会性維持向上、趣味・生きがいの再獲得を図る。

歌、楽器演奏、音楽鑑賞などを行う。演奏会等で披露する。

2. 選択プログラム



⑦木工

大工・建築業者の社会復帰、手指巧緻性や体幹バランスの向上、趣味・生きがいの再獲得を図る。
生活に必要な棚や箱の作製、破損した備品の修理や施設の営繕を実際に行う。



⑧写真

カメラマン、写真撮影・編集業務従事者の社会復帰、趣味の再獲得、作業遂行能力向上、他メンバーとの協働作業による社会性維持・向上を図る。プログラム紹介用写真撮影、年間アルバム作成、バースデーカード作成、行事等の写真撮影などを行う。

2. 選択プログラム



⑨認知トレーニング

麻雀・将棋やゲームを通して、脳の情報処理能力を高め、体幹・上肢・手指巧緻動作能力・注意力・集中力の向上を図る。

囲碁・将棋・オセロ・麻雀・テレビゲーム・テーブルゲーム等を行う。



⑩旅行

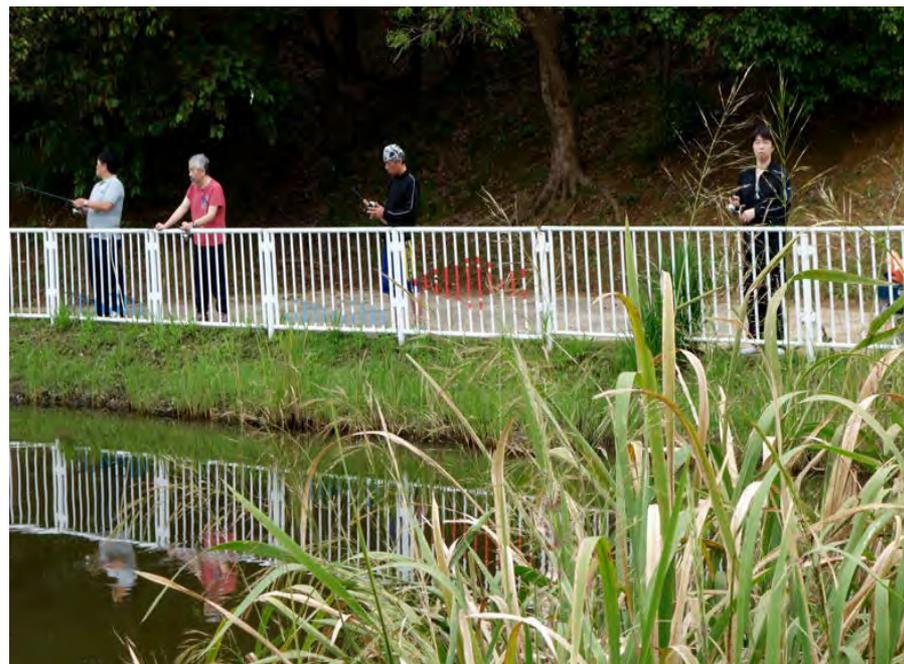
障がいがあっても旅行を楽しむことを経験し、活動意欲や企画遂行能力の向上、他メンバーとの協働作業による社会性維持・向上を図る。旅行先の調査・学習(移動手段、方法など)・企画をグループで行い、実際に旅行をする。

2. 選択プログラム



⑪ インテリア

活動性の向上、趣味の開発、企画遂行能力の向上、他メンバーとの協働作業による社会性の向上を図る。
センター内の壁・作品展示などのコーディネート、花・観葉植物の設置、季節(行事)の装飾などを行う。



⑫ 釣り

趣味の再獲得、企画遂行能力の向上を図る。
海釣りやルアー釣りなどを近隣で行う。

2. 選択プログラム



⑬ステンシル

手指巧緻性、活動意欲の向上、趣味・楽しみの開発・再獲得を図る。



3. 応用プログラム



①館内清掃プログラム

障がい者就労で求人の多い清掃作業を施設内で実践し就労へ進める。メンバー同士で作業を計画することで、主体性・自主性の促進、社会性向上や脳の活性化を図る。



②就労前プログラム

就労に必要な基本知識の習得、能力向上を図る。外部事業所から受注した作業を行ったり、事務作業、生産作業を行う。職場実習、障がい者職業センター、就労関連事業所の見学、バースディパーティー企画などを行う。

3. 応用プログラム



②就労前プログラム
(軍手作業)

3. 応用プログラム



③ 単身生活プログラム

単身生活にむけて、模擬的な独居生活体験を行う。自立生活を行う上での問題点や課題を明確化し、それをリハビリテーションで解決し、実際に単身生活に移行する。



3. 応用プログラム



④パソコンプログラム

IT関連企業の復職や新規就労に向けて、パソコンの上級技術指導を行っている。

復職支援



おわりに

福岡県の4拠点機関の連携は円滑に機能しておりそれぞれが特色を持った支援を実施しています。今後も各拠点機関共連携しながら高次脳機能障がい者の支援に積極的に取り組んでいきたいと思ひます。



福岡県のマスコットキャラクター「エコトン」

ご静聴ありがとうございました



ラルンガルゴンパ (チベット)

